

2011.10.25(火)

第110号

編集責任:ナムラ

編集担当:三好  
大江  
宇村

# \* よりそく Side by Side

## 半年ぶりのまごころネット

~変わったこと、変わらないこと~

5月の連休中に参加したまごころネットに半年ぶりに参加しました。桜、梅、桃が一度に咲きほこり、春爛漫だった風景が紅葉しはじめ、秋の装いに変わっていました。ボランティア参加者の人数も大幅に減っており、一方でまだまだ人手が必要な泥かき等の作業の残る現実もあり、息の長い支援の必要性と難しさを感じました。ボランティアの受け入れ体制やミーティングなどは、かなりシステム化されていました。ボランティアの先輩の人生に学ぼうと、まごころホームルームというものが始まっていたのも印象的でした。ボランティア参加者の、被災地によりそうという思いは変わっていませんでした。(安斎)

## 遠野雇用促進住宅で足湯隊&お茶っ子隊

遠野市総合福祉センターからほど近く、遠野雇用促進住宅にも、約40世帯の被災者家族が入居している。まごころネットと目と鼻の先でありながら、これまで支援の手が届いていなかったため、10月16日に引き続き10月23日にもお茶っ子隊が出動し入居者の皆さんとの交流の場を提供した。今回は、足湯隊との合同の活動となり、賑やかに開催しました。また、東京から来た弁護士1名も参加し法律相談にも答えた。

参加者の皆さんからは、「人と話せる場がもててよかったです。」「またこうした機会を作りたい」と喜んでいただきました。

## 長部の麦が芽を出しました！(10/24)



元気に育っています。  
ボランティア冥利につきます(-\_-)v  
陸前高田市長部地区・主住さんより写真とメッセージをいただきました！

## まごころの郷づくりレポート Vol.10 寄稿: 宮本班長

### 10月17日 「だんごの差し入れ」

開所式から一夜間、今日はススキの株との格闘再開。朝一番から近所の仮設住宅から来たおとうさんが近づいて声をかけてくれました。そして11時頃、おかあさんが通りがかり「かまだんご」8パックを差し入れてくれました。その藤原さん、隣の四季の郷の下の仮設住宅の土地2,000坪を貸しているのだと。『ご苦労さま』と声をかけてくれました。



この『かまだんご』、餡はゴマとクルミと黒砂糖と味噌とで出来ていて(製造シールに書いてありました)、濃厚な味で超おいしかったです。

隣の四季の郷に来ている人からも「へビ出るか、そこはこれまで(草が背丈以上に伸びて)ひどかった」と話しかけていただきました。地域の人から確実に注目されていることを実感しました。

ススキの株掘り返しも残りわずか。でも葛の根が持っている。先はまだまだ。

### 10月18日 「ススキに勝った」

いよいよゴールが見えてきたススキの株掘り。ラストパートをかけているとお隣の四季の郷を訪ねてこられた方が「何を植えるの?麦?もう(季節的に)遅いかもしれない。俺も最近植えていないからな。近所の人に聞いてみたらいいよ。」と声をかけてくれました。初めて参加してくれた人もはじめは鶴嘴(ツルハシ)に振り回されましたが、「腹を割って身体の正面に振るように。持ち上げるときはできるだけ重心に近い方を持って後は鶴嘴の頭の重みで振り下ろすだけ」とアドバイスを受けると軽々と振って「これ楽しい!」と次々とススキの株を掘り起こしていました。

今まで参加してくれた方々の努力の結果、残る株は十数株ほど。あと一日で終わります。いよいよ麦まきの段取りです。



でもここで一休み。実は先輩の陸前高田市氣仙町上長部地区で麦まきが始まっています。私が7月に初めて来た時、

上長谷地区は腐ったサンマの臭いがきつく、ハエが飛び回り、倒木はガレキがあふれていました。この間の努力でとうとう復活の麦をまくことができるようになりました。次は麦まきの勉強と応援でまごころの郷は全力で応援します。